

1. この会社が目指す姿が理解できるか

UT グループは、人材業界で先駆けて「無期雇用派遣」のスタイルを導入した会社であり、現在最も伸びている人材派遣業者であることが理解できた。人材派遣業界のうち、当グループは派遣社員をターゲットとしている。現在の日本では、「派遣切り」や給与の減少などの雇用問題の一因として派遣社員の増加が挙げられており、派遣雇用という雇用方法に対しての風当たりが強いと考えられる。実際、非正規社員は、労働の分野が多岐にわたるため、幅広い業種の仕事を経験できるというメリットはあるものの、正社員のように、高度なスキルを身に着けることは困難なうえ、雇用が不安定なことから、様々な社会要因を生み出す一因となっていると考えられる。このような、派遣労働者が抱える問題に関して、当グループは、働く意欲を持ったすべての人にスキルアップやキャリア形成の機会が等しく提供することで、現在の社会に適応した労働環境を作ることを目指していると、私は考えた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

この会社の同業他社に対する競争優位性としてあげられるポイントとして、事業規模の大きさが挙げられる会社の規模が挙げられる。会社規模が大きいため、地域の派遣業者に対する M&A 事業などで連結子会社を増やすことが可能であり、その結果、事業を全国展開しながらも、地域に密着した人材派遣を可能にできていると捉えた。なぜなら、地元の会社の職場風土や会社の善し悪しを現地で体感している会社を連結子会社とすることで、社員がより働きやすい環境を探ることが出来る上に、地元でのキャリアアップを目指すことも可能になるからである。現地仲介業者の子会社化をすることは、人材派遣業界においてはメリットが非常に大きいのではないかと私は思った。UT グループの競争優位性は、「高スキル人材の供給」「高い採用力」「コンプライアンス重視の現場管理体制」の3点も欠かせない要因となっているようだ。高スキル人材の育成をし、各々が特化した分野で働く社会を実現することが、経済学的に最も効率的な社会となるため、そのような社会の実現の一助となる取り組みは、これからの日本ではさらに大切になるのではないかと考えている。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

業界大手にしかできない人材派遣ネットワークがあることが何よりの競争優位性であると私は考えているうえ、当社の追い風となる労働法改正が行われてきており、これからさらに労働者を保護する風潮が加速すると考えられるため、競争優位性は保たれると考えられる。M&A 事業をさらに加速させ、地方の中小派遣会社を子会社化したうえで、それらの会社に派遣業界のノウハウを与えることで、さらに労働者にとって良い環境が出来上がると私は思う。何より、高スキルな人材を多く育成することはこれからの日本が先進国の立場を

守る上での至上命題だと考えている。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私はそう思う。以前から自身は、非正規雇用などの問題にたいして興味を持っていた。なぜなら、日本経済の低迷の根本にあるものは、中間層の年収の低下、少子化であるからだ。直接的にそれらの問題の解決の助力となることが出来る若者のキャリア支援は、人のため、国のために仕事をしている実感を得ることが出来と思った。この会社で働くことは、様々な世の中に存在する資格を知ることが出来ると同時に、それぞれの資格が活きる労働環境を選定する能力が身に着くと思うからだ。もし M&A 事業に携わることが出来るなら、会計学や経営学で学んだ知識を活かし、会社の将来性を測る能力を熟成させることが出来ると思った。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

大学1年生で、知識不足の私が批評を述べることは大変恐縮であるが、自分の視点から少し述べさせて頂こうと思う。まだバイトしかしたことの無い私から見ると、「イキイキと働く」ということに対してあまりイメージが湧かなかった。実際に働く人の声や、契約社員のアンケートなど、何か可視化できる形での紹介があると、この会社が対象とするような新しい職場に踏み込む人が、よりイメージしやすくなるのではないかと思った。

この統合報告書を読んで、自分はこの会社に好意を抱くことができ、人材派遣業界について少し知見を深めることが出来たことに感謝の意を表して、このレポートを締めさせていただきます。